

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度第2回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和8年1月20日(火) 午後6時30分から午後8時00分まで		
開催場所		市役所本庁舎本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	16人(こども・若者未来局長ほか15人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) こども・若者応援プランに係る代用計画の策定について 3 その他(情報提供) (1) (仮称)放課後等のこどもの居場所に関する基本方針について (2) 全天候型遊び場における整備検討に向けた考え方について (3) こども医療費助成制度の拡充について 4 閉 会		

審 議 経 過

1 開会

事務局が次回子ども・子育て会議の予定及び令和8年度以降に相模原市が実施を予定している子ども・子育てに係る主な事業について説明を行ったのち、会長が次第に沿って進行した。

2 議題

(1) こども・若者応援プランに係る代用計画の策定について

事務局が資料の説明を行った後、意見交換や質疑応答を行った。

(朝比奈委員) 代用計画案のうち、満三歳以上限定小規模保育事業について、必要利用定員総数が0人ということなので、意見はない。

乳児等通園支援事業について、何のための制度なのか、認知されていないのではないかと思う。本事業の目的には、保育を必要としているかどうかに関わらず、すべてのお子さんに良質な保育環境に関わる機会を設けることで、お子さんにとってよい経験にすることや、虐待死の多くは0～1歳児に起こっているという実態を踏まえ、虐待防止の観点から、保護者を孤立させないということもある。そのように考えると、利用する見込み人数を出していくのではなく、市内のお子さんが一人でも多く参加できるようにしなければいけないものだと思う。この目的が市のホームページ等にもあまり明記されていないのが理解が進まない要因だと考えている。例えば世田谷区では、この事業の目的について、市民に伝わる文言で紹介している。そんな取り組みがあってもよいのではないか。

(事務局) 一時的にお子さんを預かるという部分は、一時保育と乳児等通園支援事業は同じだが、前者は、家庭で一時的に保育が困難なお子さんをお預かりすることで子育ての負担を軽減するという保護者の立場に向けた事業であるのに対し、後者は、良質な生育環境の整備を目的としたお子さんに向けた事業である。利用する方だけではなく、施設を運営される方にも目的の違いや給付制度の違いについて、わかりやすい説明や周知を考えていきたい。

(朝比奈委員) 取り組みをしている園が身近にあった方がよいと思う。また、子どもの数に対して利用している人が少ないので、もっと気軽に利用でき、利用することがお子さんのためにもよい、というイメージになるとよいのではないか。

(石井委員) どのような理由で制度を利用しているか把握しているか。また、すでに保育所に通っているお子さんについても、通所している園以外の保育所で使えるようにはならないのか。

(事務局) 利用理由について、令和6年にアンケートをとっており、その中の意見としては、同じ年頃の子と関わりを持たせたい、いろいろな経験をさせたいといった

ことや、子育ての負担感を軽減したいといった理由が挙げられており、他のお子さんとの関わりの中でお子さんの成長を望まれて利用に至ったものと理解している。また、保育所を利用しながら他の保育園を利用することについては、制度としては、現状そのような仕組みがなく、検討もしていないところである。いただいたご意見は今後の参考としたい。

(朝比奈委員) 乳児等通園支援事業について、国の制度では利用可能時間は月10時間であり、利用料は一時間当たり300円とあるが、世田谷区では上乗せして最大で月48時間利用可能であり、無償となっている。財政的にも簡単なことではないし、同じことをやるのがよいというものではないと思うが、相模原市でも、最初の1か月の10時間は無料にするなど、利用しやすい仕組みづくりを検討したらよいのではないかと思う。

3 その他（情報提供）

(1) (仮称) 放課後等のこどもの居場所に関する基本方針について

事務局が資料の説明を行った後、意見交換や質疑応答を行った。

(安西委員) 市立児童クラブの運営について、今は公設公営のものが今後は公設民営になるかもしれないということについて、今までの市の姿勢は、保護者の検討材料として、市営には安心感、民営にはサービス内容、といったものを提示できるという考えであったと思う。なぜ公設民営を推進するようになったのか。

(事務局) 指定都市で公設公営を行っているのは、広島市、熊本市、本市のみという状況がある。また、全ての小学校に対して児童クラブを運営する中で、大きな課題となっている人材の確保や育成について考えた時に、民営のメリットが大きいと考えている。より内容の充実した体制のなかで、子どもたちを預かることを大きな目標としている。

(安西委員) 公立の良いところと民間の良いところを比較して保護者に選んでいただいていた、という今までの立場を大きく変えるものだと思うので、関係者とコミュニケーションをとって進めていくべきだと考える。

(増田委員) 朝の居場所を提供するとして、教員の勤務時間前に小学校で預かりをする中で、教員の協力が必要になる部分があると思う。教員は、授業の準備などの目的を持って朝に出勤していることもあるので、学校教育の質の低下につながることはないよう、学校の取り扱いは慎重にしてほしい。

(事務局) こどもによりよい居場所を提供するため、教育現場に配慮しつつ、連携しながら進めていきたい。

(2) 全天候型遊び場における整備検討に向けた考え方について

事務局が資料の説明を行った後、意見交換や質疑応答を行った。

(鈴木委員) 子供の年齢によっては遊べる場所が限られてくると感じていることから、このような取り組みはよいと思う。設置の時期が明記されていないが、どのようなスケジュールを考えているのか。

(事務局) 市で公共施設の再編や建て替えを検討する際に、全天候型の遊び場を併設することで相乗効果が生まれるようであれば、交通面や適地等を踏まえ、施設の所管課と共に取り組んでいきたいと考えている。

(川井委員) 児童館の活用の話もあるなかで、複合施設という観点を持ち、0歳から18歳まで対応できるような、遊び場というよりは居場所に近いところになるとよいのではないかと思う。

(3) こども医療費助成制度の拡充について

意見なし

4 閉会

相模原市子ども・子育て会議 委員名簿

(令和7年11月1日～)

氏名	役職・推薦団体等	出欠
あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	○
あんざい しゅんいち 安西 俊一	相模原市学童保育連絡協議会	○
いしい やすこ 石井 康子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	○
いのまた みか 猪股 美夏	公募市民	×
かわい たけひこ 川井 起彦	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	○
すずき せいじろう 鈴木 成二郎	公募市民	○
たがわ つぐよ 田川 継世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	○
たじま としき 田島 敏樹	相模原市医師会	×
たにぐち ひろゆき 谷口 浩之	相模原市立中学校長会	○
つづき よしみつ 都築 慶光	相模原市医師会	×
のぐち かずよ 野口 和代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	○
のざわ よしたか 野澤 義隆	東京未来大学こども心理学部 准教授	×
はぎわら けんじろう 萩原 建次郎	駒澤大学総合教育研究部 教授	○
ばば まゆみ 馬場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	○
ますだ たかのり 増田 貴範	日本労働組合総連合会 神奈川県連合会相模原地域連合	○
まちだ まりか 町田 摩里香	公募市民	○

みうら ともりの 三浦 友則	相模原保育室連絡協議会	○
よしだ くにか 吉田 久仁子	和泉短期大学児童福祉学科 准教授	○
わたぬき たかし 渡貫 隆	相模原商工会議所	○

(五十音順・敬称略)

出席15人 欠席4人